連載　中国絵はがきコレクション紹介⑤　非文字資料研究センター所蔵

戦前中国の風俗絵はがきの世界　（近藤恒弘氏　寄贈）

黄塵の原に麗日なき農民の生活・支那風俗

大里浩秋（非文字資料研究センター　客員研究員）

前号と今号で、近藤恒弘氏が寄贈してくださった多くの中国の絵はがき中、セットになっている「支那に於ける民衆風俗」と題する第一輯から第四輯の内容を取り上げて紹介してきた。ご覧になるとおわかりのように、そこに載っている光景は街中あり田舎あり港ありで、民衆の盛り沢山の姿が映し出されている。場所や時間の説明がないので特定できないながら、服装や男の髪形（もし中華民国初期、1910 年代ぐらいまでであれば、清朝時代に強制された弁髪姿が残っていたはずだが、これらの写真にはそれがない）などから推して、主には中国北方で中華民国になってある程度経った時期に撮った写真のようであるが、場所や時間の限定は抜きで「これこそ相も変わらぬ中国民衆の生活だ」と決めてかかって作成している節がある。

近藤氏が収集した絵はがきには他に、「北支民衆風俗」や「満洲国に於ける農民の生活」、「好奇を惹く満洲の風俗」と題したものもあり、それらは中国北部や「満洲」への日本人の旅行ブームを見込んで多種発行されたであろううちの一部と推量される。私の担当では、そうした光景を拾った「黄塵の原に麗日なき農民の生活」と題した絵はがき中の４枚と、「支那風俗」と題した一連の絵はがき中の２枚を並べることにする。

前者の４枚はまさに農村部にふだんに見られる光景であったろうし、日本にもかつて見られたはずののどかで素朴な印象を私は抱くものの、戦前の日本人がこれらを見てどんな感想を持ったかは気になるところではある。表紙に「麗日

図１　茅屋の如き貯穀場
PICTURE OF MISERABLE GRANARY AT MANCHU.

図２　原始的な製粉作業
PICTURE OF PRIMITIVE FLOUR MILLING.

図３　街に運ぶ黄金の大豆
PICTURE OF THE SOY-BEAN TO BRING OUT.

図４　夕日を背に農民の子
PICTURE OF THE CHILD PLAYING ON THE FIELD.

〔うららかな日々〕なき」とある如くに遅れた貧しい農民の生活と見たのであろうか。後者の２枚のうちの「子供売り」はあぜんとする場面であるものの、中国事情をあれこれ書き残した後藤朝太郎によると、親が金に困って我が子を売る場合があり、他人の子供を夕暮れなどに「かきさらって」来て、幼児であれば写真にあるように天秤棒の両方に載せて売り歩く、一人が売れたらバランスをとるために一方に重しを載せて担ぐという（『支那風俗の話』「六児女の売買」、1927、大阪屋号書店）。なお、この写真は古い時期のもので、弁髪姿が映っている。

もう１枚については、1980年当初３年ほど私が日本語教師をして広州郊外の大学に滞在した折、山地で集めてきた薪や空き瓶を拾って大事そうに運んでいる子供をよく見かけたこと、また街に出かけると、角角で手を差し出して金を求める老若男女がいたことを思い出した。これもかつて日本にも現出した光景だったのではないかと思うが。

図５　（支那風俗）支那貧民ノ子供賣リ
CHILDREN FOR SALE BY CHINESE（CHINESE COSTUME）

図６　（支那風俗）
杖を便りに街頭に立ち喜捨を求むる老乞食

日々路傍に屑物落物を拾ひ生計を立つ最下級民の小供